

Genomic Drug Discovery

2 units (selection) each-year(1st semester)

Kouji Itou (Manager) · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES, Mitsuo Itakura · PROFESSOR / COURSE OF MEDICINE FOR BIOLOGICAL RESPONSES, PROTEOMICS, Toshiaki Tamaki · PROFESSOR / COURSE OF BIOLOGICAL MEDICINE, MEDICAL SCIENCE

Shigeki Sano · PROFESSOR / INSTITUTE OF HEALTH BIOSCIENCES, Part-time Lecturer

Target) ゲノム創薬の考え方と実際について学ぶ。**Outline)** マイクロサテライトと単一ヌクレオチド多型を含ゲノム塩基配列に関する多型情報を用い、単一遺伝子の原因遺伝子と多遺伝子疾患の疾患感受性遺伝子とその多型を明らかに出来る。またゲノム情報と疾患メタボロームとの相関、および疾患治療の分子標的の構造と機能に関する情報に基づく「ゲノム創薬」と創薬の歴史や創薬の実際について講義する。**Notice)** 講義の一部は e-learning 化を予定しているので、e-learning 学習も出席として取り扱う。**Schedule)**

	大項目	担当
1.	授業ガイダンス+創薬の歴史	玉置 俊晃
2.	ゲノム情報の現状	板倉 光夫
3.	一遺伝子疾患の原因遺伝子の探索	板倉光夫
4.	疾患モデル動物を用いた疾患感受性遺伝子の探索	板倉 光夫
5.	患者を対象とする解析とゲノム創薬	〃
6.	グライコサイエンスの基礎と現状	伊藤 孝司
7.	グライコバイオロジーと疾患	〃
8.	グライコサイエンスと創薬	〃
9.	感染症克服に向けた創薬	櫻井 純
10.	有機化学を基盤とする創薬研究 (1)	佐野 茂樹
11.	有機化学を基盤とする創薬研究 (2)	長尾 善光
12.	ポストゲノム時代の創薬研究 (1)	佐野 茂樹
13.	ポストゲノム時代の創薬研究 (2)	〃
14.	新薬の開発	玉置 俊晃
15.	臨床試験	〃

Evaluation Criteria) 出席により評価する。12回以上出席すること。欠席する場合は、該当講義日担当教員が指定する課題についてレポートを提出することにより出席と認定する。なお、15回出席したものは優、13~14回出席したものは良、12回出席したものは可と判定する。**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217071>**Contact)**⇒ Itou (Institute for Medicinal Resources, +81-88-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: E-mailで質問等を受け、必要があれば面談する。)⇒ Itakura (306, +81-88-633-9454, itakura@genome.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: E-mailで質問等を受け、必要があれば面談する。)⇒ Tamaki (+81-88-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: E-mailで質問等を受け、必要があれば面談する。)⇒ Sano (薬学部本館6階東, +81-88-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (Office Hour: E-mailで質問等を受け、必要があれば面談する。)